

工業高校主催ものづくりコンテストに協賛して

九州ポリテクカレッジ 生産技術科 八崎 透・西原 邦男
(九州職業能力開発大学校) 十河 英二

1. はじめに

平成14年1月12日(土)、福岡県工業高等学校長会・福岡県高等学校工業クラブ連盟共催の「第1回高校生ものづくりコンテスト福岡県大会」が開催された。この催しは、福岡県下の工業高校生を対象に工業教育を通して有能な人材を育成し、ものづくりへの意識の高揚を図るとともに、技術・技能の習熟向上を図ることを目的にしている。

今回、九州職業能力開発大学校(以下、九州能開大という。)専門課程生産技術科は、福岡県工業高等学校長会からコンテストに対する協力を求められた。具体的には、参加予定の高校生への技術アドバイス、コンテスト会場の提供およびコンテストでの審査委員としての参画だった。そこで、今回どのようにこのコンテストにかかわったかを報告する。

2. 福岡県工業高校とのかかわり

工業高校の生徒は、九州能開大専門課程の大切な受験者になっている。特に、ここ数年多数の生徒が推薦入試で入学している。この傾向は、工業高校の先生方に夏の技術研修で、加工技術を九州能開大の職員が指導してから顕著になった。夏の暑い時期に酷暑の実習場で一緒に汗をかいての実習は、記憶に新しい。今回は、さらにこの催しに参加することで工業高校との深いつながりができた。また、生徒が機械加工を行っているところを見て、工業高校での実習の状況がある程度把握できた。

3. コンテストの概要

工業高校でも技術の多様化に伴い、技能教育にかける時間も予算も減っているということで、先生方も一定レベルの技能教育の維持に苦慮されている。そこで、「技能教育を通して有能な人材を育成するため、“ものづくりコンテスト”を実施し、ものづくりへの意識の高揚を図るとともに、技術・技能の習熟向上を図る。」という目的で、今回のコンテストが実施された。今回のコンテストは、機械・電気・電子・化学・建築の5分野で実施されたが、九州能開大は、機械分野で実施された旋盤加工の分野で協力を行った。課題は、2つの部品を2時間30分で加工するというもので、技能検定3級程度の難易度であり、機械分野での参加者は17名と盛況だった。

4. 工業高校の生徒の加工練習

加工練習については、各所属の工業高校で担当の先生と、早いところでは平成13年4月から取りかかったようだ。

そして、九州能開大で競技会を行うことが決まった後、福岡県北部と南部の工業高校の参加予定者は、それぞれ12月の2日間、九州能開大で工作機械の習熟を兼ねて加工練習を実施した。九州能開大における加工練習では、各工業高校で加工工程を決めていたので直接生徒への技術アドバイスはせず、引率の先生方から質問を受けたときに答えた。写真1に加工練習参加者、写真2に加工練習風景を示す。参加者は非常に熱心に加工練習に取り組んだ。



写真1 加工練習参加者



写真3 コンテスト審査委員



写真2 加工練習風景



写真4 コンテスト風景

5. コンテスト実施への協賛

今回、九州能開大をコンテストの会場にした経緯として、工業高校の機器設備の問題があげられる。引率の先生方のお話によると、予算の関係でどの工業高校も新規に工作機械の購入が思うに任せない。なかには、開校当時購入した工作機械をいまだに使い、各校とも保有台数が不十分である。そのなかで、ものづくりのための技術者教育を行わなければならない。このような状況のなか、福岡県高等学校工業クラブの構成員である先生方が各方面に働きかけ、九州能開大でのコンテスト実施となった。先に述べたが、九州能開大としても工業高校の先生方への研修を行っており、また、工業高校への宣伝になると考え、このお話をいただいたときすぐにお引き受けした。

コンテストは、九州能開大機械系実習場の旋盤を使用して実施され、併せて生産技術科の2名の職員が審査委員として参加した。また、日産自動車株苅田工場から3名の「現代の名工」が審査委員として参加され、コンテストを盛り上げた。

6. コンテストの状況

今回が第1回目ということで、コンテスト参加者

を中心に各校とも十分練習をしてきたとみえ、与えられた時間以内に加工が終了した。そのなかで気づいた点として、加工中に回転物の前に立つ、面取りにヤスリを用いるといった安全面での問題、工作物の固定の不備、加工工程の誤りといった技術面での問題が見受けられた。これらの問題点については、コンテストの閉会式において審査委員が講評のなかで指摘した。参加者の作品については、加工終了後審査委員で採点を行った。大勢の見物者のなか、緊張した雰囲気では参加者は加工に臨んだが、入賞者は高得点を獲得し、さらなる技術・技能の習得に意欲を燃やしていた。

7. おわりに

今回、「福岡県工業高校ものづくりコンテスト」に協賛した。若い技術者の卵が真剣にものづくりに取り組む姿勢はさすがしい。今後とも技術・技能教育に従事する者として今回のような催しには、積極的にかかわりたいと思う。

<参考文献>

- 1) 第1回福岡県高校生ものづくりコンテスト実施要領、福岡県高等学校工業クラブ連盟。